

奥尻町のあゆみ

昭和のできごと

西暦	年号	奥尻町のできごと
1926	大正15 (昭和元)	7月31日、幌内特別教授場廃止。9月18日、村長に渋谷甚太郎が就任(歴代8代目)。10月、茶津尋常小学校校舎が改築。12月、幌内での硫黄礦採掘終了(廃山)。この年、畝本久四郎が自家用の水力発電を塩釜川に設置、一部発電開始。
1928	昭和3	この年、東風泊～茶津坂下間の道路が開さく。
1929	昭和4	6月14日、稲穂灯台霧笛信号所着工。10月17日、赤石特別教授場改築。
1930	昭和5	1月、奥尻漁業組合青苗支所設置。8月、檜山支庁長の御村長太郎が視察に来島。9月26日、渋谷甚太郎村長が小沢村長に転任、後任に太櫓村長の若松清が赴任(歴代9代目)。
1931	昭和6	2月、茶津～勘太浜間の海岸道路6,900m延長。6月、村会議員の定員数が18人となる。7月6日、徳洋記念碑起工。7月21日、函館師範学校教諭の深瀬春一が青苗村で貝塚発見。10月25日、徳洋記念碑除幕式挙行。
1932	昭和7	4月7日、村長に菅原直次郎が就任(歴代10代目)。7月30日、釣石尋常小学校が開校50周年記念式典。この年、青苗船入澗起工。
1933	昭和8	4月1日、北海道水産物検査所奥尻派出所が釣懸に、同青苗派出所が青苗に設置。6月1日、釣懸船入澗起工。6月17日、道庁の佐上信一長官来島。7月5日、本島開拓功労者の岡本三郎の墓所修理。8月31日、青苗尋常高等小学校の教室増築。12月、青苗船入澗竣工。
1934	昭和9	1月9日、村長に国頭自由吉が就任(歴代11代目)。4月、乗合自動車運行。8月15日、青苗船入澗附属埋立地起工。9月7日、薬師尋常小学校増築。11月30日、釣懸船入澗竣工。
1935	昭和10	1月14日、青苗埋立地竣工。9月29日、稲穂小学校第7代校長の栃久保平治の頌徳碑の除幕式。12月6日、島内の電話通話事務開始。
1936	昭和11	4月9日、村長に松田熊吉が就任(歴代12代目)。11月17日、電話交換事務開始。
1937	昭和12	7月1日、奥尻村防護団結成。7月8日、青前尋常高等小学校1教室増築。
1938	昭和13	10月5日、村長に川口谷庄蔵が就任(歴代13代目)。12月1日、道南海運株式会社設立。
1939	昭和14	6月23日、北方産業株式会社が無縁島礦区に亜炭礦を開く。10月30日、青苗尋常小学校が開校50周年記念式典。

1940	昭和15	1月3日、茶津青年団が宮津青年団と改称。菰澗青年団が稲穂青年団と改称。2月、道南海運株式会社が本社を函館に移転。4月3日、稲穂尋常小学校に高等科併置。4月、村長に柿本孫一が就任(歴代14代目)。11月4日、稲穂尋常小学校校舎が新築落成。
1941	昭和16	9月、字名が改称。青苗(旧名通り) 米岡(千畳) 富里(青苗沢) 松江(薬師・初松前) 赤石(恩顧歌・赤石・富士川) 奥尻(釣懸・谷地) 宮津(茶津・東風泊) 球浦(球島) 湯浜(幌内・神威脇) 稲穂(のなまえ・菰澗・勘太浜)
1942	昭和17	1月1日、釣石国民学校が奥尻国民学校と改称。茶津国民学校が宮津国民学校と改称。7月25日、青苗に北海道興農公社が工場設立。
1944	昭和19	4月、奥尻漁業会設立。奥尻消防組が奥尻警防団と改称。6月10日、奥尻国民学校講堂と2教室が新築落成。
1945	昭和20	9月、奥尻国民学校赤石特別教授場が赤石国民学校として独立。10月2日、米岡青年団結成。12月、薬師青年団が松江青年団と改称。
1946	昭和21	8月22日、千島列島国後島の1郡2村の住民280名神威脇に入植。9月25日、赤石分教場が廃止され、赤石国民学校となる。
1947	昭和22	1月3日、東風泊青年団結成。1月31日、奥尻国民学校神威脇分教場設置。4月1日、薬師国民学校が松江小学校と改称。中学校が奥尻・青苗・稲穂小学校に併置。奥尻警防団が廃止され、奥尻消防団となる。4月30日、初の普通選挙で村長に津山久雄が当選(歴代15代目)。村会議員定数が22人となる。6月、奥尻漁業会より青苗漁業会が分離設立。この年、青苗船入澗の拡張5ヵ年計画着手。
1948	昭和23	1月1日、稲穂岬正規気象観測所設置。7月1日、北海道酪農協同株式会社奥尻工場がカゼイン製造。10月30日、松江小学校増築。
1949	昭和24	1月4日、青苗青年会を青苗青年団と改称。4月、青苗中学校校舎が新築落成し、2部授業となり小学校から分離。神威脇分教場が神威脇小学校と改称。6月22日、水産業協同組合の整備に伴い、各漁業会が漁業協同組合と改称。7月1日、青苗中学校校舎が新築落成。奥尻漁業協同組合から赤石・稲穂がそれぞれ分立。7月15日、本村開基70周年記念式。12月1日、松江・赤石に簡易郵便局開設。
1950	昭和25	4月1日、奥尻中学校に奥尻子供气象台設置。4月21日、島誌編さん委員会発足。10月8日、札幌西高校郷土研究部による文化研究座談会。
1951	昭和26	1月5日、奥尻中学校校舎が新築落成。4月1日、奥尻中学校宮津分校設置。4月24日、村長選挙で津山久雄が無投票再選(2期目・歴代16代目)。6月1日、北海道酪農協同株式会社が雪印乳業株式会社奥尻工場と改称。7月29日、奥尻中学校野球部が初の島外遠征。8月1日、奥尻電気消費生活協同組合設立、鍋釣発電所・富士川発電所稼働、青苗電気消費生活協同組合設立、青苗発電所稼働。この年、西海岸一帯と室津島周辺が水産資源保護法の指定を受ける。
1952	昭和27	1月1日、稲穂電気消費生活協同組合設立、稲穂発電所稼働。1月22日、奥尻中学校が2教室の増築落成。1月、青苗中学校校舎が増築落成。青苗沢青年団が富里青年団と改称。2月24日、北海道漁業調整規則により、本島の保護水面区域内に種鮑が移植される。7月24日、奥尻に公民館設立。8月、奥尻港電探基地整備事業の拡張工事を施行。

1953	昭和28	1月、宮津小学校校舎が新築落成。9月19日、宮津に公民館設立。10月7日、青苗小学校校舎が第一次改築落成。10月28日、赤石に公民館設立。
1954	昭和29	1月8日、稲穂に公民館設立。3月、奥尻幼稚園開設。4月1日、青苗漁業協同組合が松江漁業協同組合と合併し、南奥尻漁業協同組合と改称。7月13日、奥尻中学校の講堂落成。8月29日、奥尻・赤石・稲穂の3漁業協同組合が合併し、奥尻漁業協同組合が発足。9月10日、離島振興対策審議会が奥尻が指名される。9月25日、青苗岬の岬台起工。10月30日、青苗に公民館設置。
1955	昭和30	1月10日、青苗救難所が改組。4月24日、村長選挙で津山久雄が無投票再選(3期目・歴代17代目)。
1956	昭和31	1月27日、松江に公民館設立。この年、青苗に簡易水が建設。
1957	昭和32	6月、パーライト産床発見される。10月、ロータリービーコン方位信号所竣工。12月1日、球浦小学校開校。12月5日、奥尻に簡易上水道建設。
1958	昭和33	6月17日、奥尻消防団が7分団編成となる。この年、島内の道路延長が158,023.8mあった。
1959	昭和34	5月1日、村長選挙で上埜賢が当選(歴代18代目)。6月1日、奥尻小学校で希望者に牛乳給食を開始。この年、航空自衛隊基地ができる。
1960	昭和35	4月20日、桧山道立自然公園の一部として指定される。奥尻幼稚園休園。奥尻・青苗・赤石・松江・東風泊へき地保育所開設。
1961	昭和36	3月、奥尻・青苗・稲穂の電気消費生活協同組合が合併し、奥尻村電気利用協同組合設立、ホヤ石川発電所稼動。この年、一般会計歳入・歳出決算見込額が初めて1億円を、超える
1962	昭和37	8月3日、台風9号により塩釜川氾濫。この年、富士川・稲穂発電所廃止。大岩生発電所稼動。
1963	昭和38	5月、村長選挙で上埜賢が再選(2期目・歴代19代目)。5月27～28日、奥尻大火発生、149世帯が全焼。8月9日、台風10号により塩釜川氾濫。この年、鍋釣・青苗発電所廃止。
1964	昭和39	この年、東風泊に船揚場新設。
1965	昭和40	1月1日、奥尻公民館設置。10月、奥尻第一発電所稼動、3号機増設。この年、青苗に漁業用通信施設と干場設置。
1966	昭和41	1月1日、奥尻町制を施行。町章制定。4月28日、町婦人団体連絡協議会結成。6月15日、町立青苗へき地保健福祉館の使用条例制定。7月24～25日、町制施行の記念式典を挙げる。奥尻音頭披露。9月25日、町体育協会が設立総会。10月30日、松江小学校の体育館竣工。11月14日、奥尻港東堤防波堤灯台完成、点灯開始。11月19日、松江小学校の体育館落成式。

1967	昭和42	1月7日、町製氷冷蔵庫が青苗地区に完成。4月28日、町長選挙で上埜賢が無投票再選(3期目・歴代20代目)、町議会議員選挙(定員29名に立候補29名)。6月23日、フェリー「奥尻丸」が就航(奥尻～江差間を2時間30分で結ぶ)。9月1日、奥尻第一発電所が奥尻火力発電所として稼働、2号機増設。この年、奥尻町の高校通信制課程に専任指導員が発令される。
1968	昭和43	「庚申の杉」が北海道の名木に選定される(所有者:澳津神社、推定樹齢約200年)。10月20日、神威脇小中学校の体育館落成。10月27日、室津島の太陽電池灯台が点灯式。この年、奥尻火力発電所に1号機増設。
1969	昭和44	3月、定数改正により町議会議員定数18名と改正。6月3日、奥尻島観光協会が設立総会。11月10日、稲穂へき地保健福祉館、赤石母と子の家完成。11月25日、町総合研修センターが青苗地区に落成・記念式典。
1970	昭和45	4月1日、中学校統合校舎が完成(奥尻中・宮津中・稲穂中統合)。4月9日、稲穂・宮津地区にスクールバス運行。11月1日、中学校統合校舎完成記念式典。この年、青苗地区に展望台設置。宮津弁天に観光休憩所設置。勘太浜会館完成。奥尻地区にごみ焼却炉設置。奥尻発電所増築、4号機増設。
1971	昭和46	4月25日、町長選挙で上埜賢が無投票再選(4期目・歴代21代目)。6月14日、国保病院で歯科開設、診療開始。12月1日、航空自衛隊創立17周年記念・奥尻島分屯基地体育館落成・記念式典。宮津地区にコウライキジ養殖センター完成(種鳥30羽を日高浦河町より導入)。この年、東風泊へき地保健福祉館設置。富里へき地保健福祉館設置。
1972	昭和47	3月1日、奥尻・青苗間の電話が市内化になる。9月9日、稲穂岬北方照射灯が正式業務開始。12月1日、異常低気圧による高波が襲い、住家、道路、河川、漁船などに大きな被害(被害総額約3億300万円)。
1973	昭和48	3月1日、奥尻内電気施設22年間の歳月を経て北海道電力株式会社へ移管。4月1日、青苗小学校校舎が新築落成(4月6日から授業開始)。4月、電気事業法の改正により北海道電力株式会社へ電気設備を移管、運転保守業務を町役場発電課に委託。10月21日、電気施設・設備の移管式典。10月30日、奥尻小学校校舎が新築落成。この年、自動車整備施設建設。
1974	昭和49	4月1日、檜山広域消防組合(檜山管内10町一本化)発足。10月5日、奥尻空港開校記念式典(札幌～奥尻～函館～札幌定期航路)。10月15日、19人乗り航空機初就航。この年、富里～米岡農道整備。奥尻空港ターミナルビル建設。奥尻小学校の体育館建設。
1975	昭和50	1月1日、元村長津山久雄が奥尻町名誉町民の称号を贈られる(第1号)。4月27日、町長選挙で越森幸夫が当選(歴代22代目)。5月、町立国保病院完成、診療開始。10月8日、奥尻電話交換局新築、電話がダイヤル式に変わる。11月、ごみ焼却炉新設。

1976	昭和51	4月、北海道立江差高等学校奥尻分校開設。5月15日、航空機運航経路が変更(札幌―函館―奥尻―函館―札幌)。5月、青苗遺跡の発掘調査本格化。5月、青苗平磯地区で大規模増殖場(アワビ)開発事業始まる。6月1日、堂垣内尚弘北海道知事が行政視察で奥尻初来島、移動知事室開催。神威脇地区に生活改善センター建設。賽の河原に休憩施設建設。
1977	昭和52	1月25日、町区会連合会設立。青年団体「奥青会」結成。3月31日、青苗小学校藻内分校廃校。4月1日、北海道立江差高等学校奥尻分校から北海道立奥尻高等学校が独立認可。4月23日、サクラマス稚魚約7万匹なべつる川に放流。この年、神威脇温泉保養所オープン。奥尻港旅客上屋建設。稲穂地区にかん水畜養施設新設。サケ・マス稚魚、ホタテ稚貝の放流事業開始。道々奥尻島線神威脇～幌内間の工事に着工。奥尻火力発電所に5号機増設。
1978	昭和53	3月26日、町文化協会設立(10団体加入)。3月30日、サクラマス稚魚70万匹なべつる川に放流。7月15日、奥尻町開基100年記念式典・祝賀会を挙行(高円宮同妃両殿下臨席)、町民憲章制定を発表。この年、戦没者合同慰霊祭開催。望郷の碑除幕式。水稻共同育苗施設建設。町花(ハマナス)・町木(イチイ)を設定。記念植樹。記念映画製作。
1979	昭和54	4月22日、町長選挙で越森幸夫が無投票再選(2期目・歴代23代目)。7月、町民グラウンド完成。8月1日、し尿処理センター完成・落成式。8月16日、灯油備蓄施設完成・落成式、タンカー1号船(第8良芳丸)入港、灯油備蓄始まる。11月3～4日、初の町総合文化祭開催。11月15日、町総合開発計画審議会開催。12月21日、野菜貯蔵施設完成・落成式。12月28日、赤石自治振興会館完成・落成式。この年、青苗中学校の総改築工事に着工。
1980	昭和55	3月19日、交通事故死ゼロの日1000日達成。3月27日、青苗研修センターと魚采市場完成・落成式。3月28日、神威脇中学校閉校式(4月から青苗中学校に統合)。6月3日、奥尻漁業協同組合貯氷冷蔵施設完成・落成式。11月13日、防災行政無線放送が開始。12月19日、神威脇地区電話工事が完了、通話開通。12月20日、球浦自治振興会館完成・落成式。この年、つりかけ沢橋の架け替え。漁業協同組合の総合加工処理施設新設。
1981	昭和56	6月4日、農業協同組合制度30周年記念大会開催。6月23日、交通事故死ゼロの日1460日でストップ。9月3～4日、台風18号から変わった低気圧により、奥尻全島が集中豪雨災害(総雨量321ミリ、被害総額約63億9,700万円)。10月24日、青苗中学校校舎が新築・落成式。この年、医師住宅新築。
1982	昭和57	5月14日、勘太浜漁港が稲穂漁港分港として新規指定。6月1日、彫刻「北追岬」(彫刻家・流政之制作)が除幕式・祝賀会。7月11日、奥尻小学校開校100周年記念式典・祝賀会。7月15日現在、イカが大漁(前年同期30トン、約800万円、本年510トン、約2億3千万円)。12月19日、神威脇温泉保養所増改築が完成・祝賀会。この年、大岩生発電所廃止。

1983	昭和58	4月1日、奥尻幼稚園再開(昭和35年休園以来、4月13日に入園式)。4月24日、町長選挙で越森幸夫が再選(3期目・歴代24代目)。5月12日、初の畜産共進会開催。5月26日、日本海中部地震発生(秋田県西方160キロ沖、マグニチュード7.7)、津波により死者2名(被害総額約13億8千528万円)。11月14日、郵便業務オンライン化、奥尻郵便局で記念始動式。11月15日、原子力再処理工場誘致問題調査委員会条例の廃止を求める直接請求署名運動。
1984	昭和59	3月18日、群発地震が発生(5月10日まで有感57回、町内に地震計7台を設置して調査)。5月2日、ファミリーパーク完成・オープン。5月12日、幌内地区が衛星通信電波でテレビ受信可能となる。6月26日、歴史民族資料館完成・オープン。8月、神威脇～幌内間の道路3,604mが開通。9月、奥尻中学校グラウンドに夜間照明施設完成。9月23日、町長選挙で明上甲子雄が当選(歴代25代目)。12月13日、南方系の珍獣ハクビシン奥尻町で発見。12月、町明日を築く青年会議設立。
1985	昭和60	1月10日、桜ヶ丘スキー場にロープ塔完成。4月9日、青苗川でサケ稚魚100万尾放流。12月14～15日、明日を築く青年会議が初の特産品フェスティバル開催。12月21日、総合葬祭場完成・竣工式(昭和61年1月5日から利用開始)。この年、佐藤義則投手(阪急ブレーブス)がリーグ最多勝利賞(21勝11敗)。青苗地区と大成町間(37.7km)の海底ケーブルが光ファイバーに取り替えられた(NTT)。
1986	昭和61	5月7日、交通事故死ゼロの日1000日達成(55年3月以降2度目)。6月29日、交通安全啓発パレード。8月8日、旧幌内硫黄鉱山跡で無縁仏供養祭実施。10月14日、日本近距離航空奥尻空港管理事務所で奥尻～函館間の乗降客10万人達成。この年、なべつる岩の補修工事実施。奥尻漁港ホタテ部会設立。
1987	昭和62	1月、北海道立奥尻高等学校新校舎が完成。5月1日、フェリー大型新造船「第5ひやま」就航(1599トン、旅客定員540名)。6月30日、北海道立奥尻高等学校創立12周年・開校10周年・新校舎落成記念式典・祝賀会。8月1～11日、日本海縦断ヨットレース開催(島根県陰岐島・新潟県佐渡島・北海道奥尻島)。8月19日、日本大相撲奥尻場所40年ぶりに再現(奥尻小学校特設会場)。8月31日～9月1日、台風12号から変わった低気圧による強風・高波で大きな被害(漁船171隻沈没・破損、道路・海岸決壊等、被害総額約11億4,516万円)。9月19日、交通事故死ゼロの日1500日達成。10月6日、交通事故死ゼロの日1516日でストップ。11月8日、北追岬公園で石彫「回天が原」「神威流」の除幕(彫刻家・流政之制作・寄贈)。12月16日、稲穂岬灯台に電波灯台(レーマークビーコン)局完成・運用開始。この年、勤太浜自治振興会館落成。
1988	昭和63	4月、青苗幼稚園開始。4月1日、町民センター完成、オープン。7月8日、わかめ焼酎「おくしり」製造販売記念試飲パーティ開催。9月11日、町長選挙で越森幸夫氏が再選(通算4期目・歴代26代目)。12月2日、宮津大橋竣工・渡橋式。